

平成28年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人名古屋工業大学

1 全体評価

名古屋工業大学は、中京地域とともに培ってきた産業技術と産業人材の揺籃機能を一層強化し、世界に冠たる「ものづくり産業」を支え、次代の発展を導くため、「中京地域の産業界との融合」を基本方針として、地域産業界の求める人材養成に向けた教育組織改革を中心とする機能強化に取り組むこととしている。第3期中期目標期間においては、学部・大学院の再編及び学部・大学院博士前期課程を通じた6年一貫教育により、地域産業界が求める高度かつグローバルな技術者等の専門職業人を育成するとともに、研究開発能力を有する先導的な人材を育成すること等を基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、新たに設置した工学部創造工学教育課程において、幅広い工学分野の知識等の修得を目指す研究室ローテーションや、6つの観点から学習達成度を測るルーブリックを用いた学習指導等を実施しているほか、寄附受けした株式の配当金を原資として給付型奨学金を支給する独自の奨学金制度を設立するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成28年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 卓越した研究成果を創出しうる人材を輩出することを目的としているフロンティア研究院に、インペリアル・カレッジ・ロンドン（英国）やカリフォルニア大学（米国）等、海外の大学・機関から20の研究ユニットを招致し、国際共同研究を推進するとともに、様々な形での国際シンポジウムやセミナーを開催している。また、グローバルな専門職業人育成のため、海外招致ユニットの外国人教員による英語授業を計8科目開講している。（ユニット「『名工大版理工系人材育成戦略』を中心とした機能強化」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載12事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載4事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 新たな給付型奨学金制度の導入

新たな奨学金制度として、企業を経営する寄附者が設立した会社の株式を寄附受けし、その配当金を原資に給付型奨学金を支給する「名古屋工業大学ホシザキ奨学金」を設立しており、経済的な理由によって修学が困難な、将来ものづくりに携わることを希望する学生5名に対して、1人当たり年額144万円を給付している。

○ 科研費獲得額の増加

科研費不採択者のうち、「採択課題に準ずる程度」の判定を受けた研究者に対する翌年度申請に向けた準備経費の配分や、過去の採択申請書の閲覧及び採択実績の多い教員による指導といった支援の結果、平成28年度における科研費の獲得額が、約6億5442万円（対前年度比約16.7%増）となっている。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載2事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 大学の研究成果の国際的な発信

大学の教育研究の成果や社会貢献等の活動をウェブサイトやSNS等で迅速に発信するとともに、全世界に最新の研究成果を公開するウェブサイトを活用した国際的な研究成果の発信や、伊勢志摩サミットにおける中部地区紹介パンフレット（英文）への掲載、トップジャーナルへの研究成果の広告掲載等、大学の研究成果の国際的発信を推進している。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載8事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 創造工学教育課程での新たな教育

専門分野を中心に幅広い工学の高度な知識と、価値創造の能力を持ち、新たな価値を創出する技術者を育成することを目的として新たに設置した工学部創造工学教育課程において、幅広い工学分野の知識等の修得を目指す「研究室ローテーション」や6つの観点から学習達成度を測るルーブリックを用いた学習指導等の教育を実施している。

○ 海外からの研究ユニット招致の推進

学内アドバイザーによる海外研究機関とのネットワーク強化や、コーディネーターの配置による外国人研究者の受入の円滑化などを図った結果、インペリアル・カレッジ・ロンドン（英国）やカリフォルニア大学（米国）といった、海外の大学との国際共同研究が推進され、当初の年度計画であった6件を大きく上回る20件の研究ユニット及び外国人研究者24名の招致に成功している。